

みつくら

令和 7年 7月15日 第438号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

千田さんがイーハトーブ花巻ハーフマラソンに出場

4月27日に行われた「第13回イーハトーブ花巻ハーフマラソン大会」に千田安彦さんが出場した。この大会は、ハーフマラソン（約21,1km）と10kmの部に分かれて行われ、全国からハーフマラソンと10kmマラソンを合わせて約3千人が参加した。昨年に続いて10kmマラソンの部に出場した千田さんは、この大会に過去10回出場していて、これまでの最高タイムは49分を記録していたが、病氣復帰後とあって目標を60分とした。日居城野競技場を出発し、花巻南校の手前を折り返すコースで、タイムは目標を僅かにオーバーの61分であった。当日はゲストランナーにオリンピックで活躍した富士加代子選手が招かれ、隣を走っているときに「頑張って、頑張って!」と声を掛けられたそうだ。

千田さんはこれまでに、久慈市の「あまちゃんマラソン」、釜石市の「仙人峠マラソン」、遠野市の「遠野ジンギスカンマラソン」、北上市の「北上マラソン」、金ヶ崎町の「金ヶ崎マラソン」、「イーハトーブ花巻ハーフマラソン」に出場している。

100kmマラソンに熊谷さんが挑戦

熊谷雄市さん（加口家）は、6月8日に行われた「岩手銀河ウルトラマラソン100」に挑戦した。この100kmのコースは、午前4時に北上総合運動公園をスタートし、金ヶ崎町から花巻市を通り、西和賀町を経由して雫石総合運動公園にゴールするもの。

熊谷さんは、当日午前3時前に北上総合運動公園に到着し、軽くランニングをするなどしてスタートに備えた。腰に巻いたウエストポーチには携帯電話とテーピング、胃薬や痛み止め薬などをいれて万に備えた。定刻の午前4時に2千人のランナーが一斉にスタートし、多くの家族や応援する人々で会場は大いに賑わった。軽快に走りだした熊谷さんだったが30km時点で次第に苦しくなり棄権もちらついたが、実家の前（鉛温泉の手前）で応援のため待っている妻の博子さんや娘の彩香さん、春香さん、博子さんの実家の家族の応援

があるのでそこまではなんとか頑張ろうと自らを励ました。博子さんの実家前に到達すると、家族ら8人が大きな声援をくれたのでさらに頑張れたが、豊沢ダム堰堤の50kmまで走ったところでやむなく棄権となった。時刻は午前11時49分11秒で実に7時間49分を走破した。

熊谷さんは「100kmは完走出来なかったが頑張れたので悔いはなかった。来年も挑戦したい」と語っていた。ほかに石鳥谷町からこの100kmマラソンに挑戦したのは、新堀の瀬川義光さんもいて、瀬川さんは70kmを過ぎた地点で棄権している。

このマラソンのコースには5km毎に水やバナナ、梅干し、塩飴などが用意され、トイレも設置されていたそうだ。

葛丸川沿いに恒久電気柵を設置

6月3日、下大瀬川美土里の会（熊谷俊彦代表）に対し、県花巻農林振興センターから葛丸川沿いに恒久電気柵を設置し、野生生物侵入遮断効果の実証をしたい旨の提案があった。花巻農林振興センターは令和5年から野生鳥獣による農業被害防止のため、管内において実証を行っており、今年は葛丸川沿い、富沢橋から上流160メートルに恒久電気柵及びセンサーカメラを設置し、被害防止効果を確認・実証しようとするもの。

下大瀬川美土里の会では、昨年から有害鳥獣被害防止のため葛丸川沿いに電気柵を設置することについて花巻市農村林務課に相談しており、この動きを受け葛丸川沿いへの設置となったもの。同会は、6月14日の第2回の草刈りにおいて花巻農林振興センターの提案を構成員に説明し提案を受け入れることについて構成員全員の賛同を得た。

また、葛丸川の富沢橋から大瀬川橋の間の恒久電気柵設置箇所を含む約1,000メートルについて有害鳥獣対策のための緩衝帯づくりとして、28名の参加を得て草刈り作業を実施した。

なお、恒久電気柵は7月25日（金）に設置される予定となっている。

みちのく神楽大会に大瀬川神楽保存会が出演

花巻地方神楽協会主催の「みちのく神楽大会」が6月8日に花巻市文化会館で約400名の観客のもとに開かれた。

花巻地方神楽協会には33団体が加入しており、今回はその中から16団体が出演した。

大瀬川神楽保存会は13番目に登壇して「鳥舞」が披露された。裏方は熊谷茂さんが、笛は畠山絹雄さん、熊谷美奈子さんの太鼓と熊谷雅人さんの鉦に合せて、熊谷和典さんと藤原美輝さんが優雅な鳥舞」を披露した。

大瀬川神楽保存会は、昭和52年に再発足し、同年の5月31日に大瀬川公民館で行われた石鳥谷町神楽大会に出演したのが初演であった。初代会長は藤原進さんで、現在は2代目の畠山絹雄さんが担っている。大瀬川神楽は昭和63年に石鳥谷町無形民俗文化財（現花巻市無形民俗文化財）に指定されていてこの間、平成13年には石鳥谷町芸術文化協会から文化功労団

体として表彰されている。

ふれあいサロンを開く

九区のボランティア団体たんぼの会（菅原文子代表）は6月18日、第九区自治公民館で2回目のサロン会を開催し10名が参加した。はじめは菅原千恵子さんの紙芝居で、「となりのさくら」「かつぱのすもう」など5話を、菅原さんの情景が見えるような語り口で楽しんだ。その後は話し合いが開かれ、菅原代表から「昔ながらの粉物料理を先輩方に教わる機会をぜひ作りたい」と提案が出された。会員からは「最近、作ることも少なくなり教えるのはちょっと難しい」との意見もあったが、「今教わらないと忘れられてしまうのでは」との意見が出て、今後の検討課題となった。

また、花巻市が行っている介護予防事業「いきいき講座」は、たんぼの会が主体となって開催してきたが、これからは九区住民全体に参加を募っていききたいと、会では今回の「いきいき講座」を7月16日（水）10時から九区自治公民館で開催することとした。内容は「認知・老化予防の食事」と「棒体操」を予定しているので健康で生き生き過ごすためにぜひ多くの参加をお願いします」と呼び掛けていた。

淡水魚愛護組合がヤマメの稚魚を放流

葛丸側淡水魚愛護組合（菅原昇組合長、組合員54名）では6月28日にヤマメの稚魚5,000匹を放流した。稚魚を放流した場所は山祇神社付近の葛丸川で、子供育成会の児童らも含めて15名が参加した。バケツに入った稚魚は子供たちによって葛丸川浅瀬の澄んだ水の中に次々と放された。

この稚魚放流は、淡水魚愛護組合と葛丸の農村環境を守る会が共催して、平成20年から毎年行っている。

32年ぶりに竹の花

みつくら7月1日号に写真で紹介したが、大瀬川で（全国でも）竹の花が咲いた。6月11日に菅原黎治さんから「菅原奉文さんの屋敷に竹の花が咲いている」と連絡があり、写真に撮った。屋敷内には140本の竹があり、それらは一斉に花が咲いていた。調べたところ竹の品種は「女竹（めだけ）」のようだった。女竹は主に川岸に生えていて、竹の高さは、孟宗竹の半分（3m）ぐらい、太さも釣り竿ぐらいの太さで釣り竿や昔は土壁の骨組みとしても使われているとのこと。菅原康文さんは「前に咲いたのは平成5年の冷害の年でした」と話していることから32年ぶりとなる。他に竹の花がないかと葛丸川を200m程下ってみたが女竹は見当たらなかった。ところが、その花の咲いた竹の枝を板垣真裕美さん（立野家）に見せたところ「家でも同じような竹に花が咲いたので縁起が悪いと思い、直ぐ切ってしまったの」と話された。竹の花が咲くと竹は枯れてしまうそうで、その珍しさから凶兆（不吉なことが起きる兆し）ともいわれているが、なんとか穏やかな世の中であってほしいものだ。

みつくら 令和 7年 7月15日 第438号 発行 大瀬川活性化会議 編集 「みつくら」編集委員会 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2 大瀬川振興センター 電話45-6472 “お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!” あじさいの会が総会 八区のボランティアグループ「あじさいの会」の総会は4月22日に大瀬川振興センターで行われた。総会は毎週火曜日に行っている「元気でまっせ体操」の後に開いたもので15名が出席した。 板垣福子会長が「みなさんの協力をいただき1年間、計画通り活動することができました」と挨拶し、菅原事務局長から事業報告の説明があった。 令和6年度の事業報告では、「元気でまっせ体操」が45回（延べ約520人）、「ミニサロン」は6回、「ふれあいサロン」が5回行われた。中でもこのふれあいサロンでは「ますます元気になりましょう交流会」や「歌謡曲に合わせた有酸素運動」「民謡・懐メロを楽しむ」「いきいき講座・体力測定」「民謡と太鼓で楽しむ講座」など5回の開催に122名が参加している。ほかに会計報告では、会費が25名から5,000円、助成金が大瀬川活性化会議と社会福祉協議会から合わせて43,000円、都度会費が25,300円など総額76,437円であったと報告された。 寸劇で大笑いして体験テストで実感する ボランティアグループあじさいの会（板垣福子会長）は、6月30日に大瀬川振興センターで31人が参加して「ふれあいサロン」を開催した。今回の内容は、大瀬川地区が今年度交通安全モデル地区に指定されたこともあり、高齢者交通安全教室を行った。 最初に（自称）松坂慶子さん、吉永小百合さん、藤原紀香さんら3人の花巻市交通指導員が自転車の乗り方や道路横断時の注意を啓発するユーモアたっぷりの寸劇を披露した。昨年交通法規の変更で、自転車の飲酒運転が摘発の対象になり反則金が大幅に引き上げられたほか、今年からは「ながらスマホ」も同様に対象とされ、反則金額の高さに皆がびっくりしていた。続いて、花巻市役所市民生活総合センターの方2名が3種類の用具による体験テストを行った。 ゴーグルを装着すると酔った状態が体験でき、足元がふらふらして真っ直ぐに歩くことができなかった。双眼鏡型の用	具では、夜間などの暗い中で反射材がどれほど有効性があるかを体験できた。夜間は特に目立つものを身につけたい。 一方、反射神経を測定するクイックキャッチでは、体験者の年齢を入力して、2本のボールのLEDランプが上から下りてくる時にボタンを押して定位置に止めることに挑戦した。5回挑戦し終えると診断年齢が印字されたシートが出てくるのだが、結果を見て実年齢との差に一喜一憂しながらもたいへん盛り上がっていた。 体験者全員には反射材とタオルハンカチが配布された。 釣果を競って葛丸川釣り大会開催 6月29日葛丸川淡水魚愛護組合（菅原 昇組合長）主催の歴史ある第59回目の釣り大会（6時〜8時）が開催され一般46名、子供18名、観覧者56名の総勢120名が参加して前日に放流されたニジマスを各自が自慢のテクニックを披露して釣った。今回の釣り大会は釣果がよく、多くの参加者から楽しかったと感想が聞かれた。 菅原会長は閉会式で「皆様のご協力とご参加により、この会が続いております。来年もよろしくお願いいたします」と話し、前日より草刈りや清掃、ネット設置と、大会準備をした役員の皆さんを「ご苦労様でした」と労っていた。 （入賞記録） 一般の部 大漁賞 優 勝 丸山勝敏（滝沢市）55匹 準優勝 丸山茂夫（葛巻町）38匹 3 位 菅原善憲（花巻市）37匹 大物賞 優 勝 金子 洋（花巻市）28.0cm 準優勝 藤澤光徳（盛岡市）27.5cm 3 位 阿部美貴子（花巻市）27.0cm ジュニアの部 大漁賞 優 勝 熊谷咲斗（さきと）（大瀬川）52匹 準優勝 菊池陸琥（りく）（花巻市）42匹 3 位 工藤詩葉（ことは）（紫波町）40匹 大物賞 優 勝 松場陽太（ひなた）（花巻市）25.5cm 準優勝 畠山真瑠（まる）（紫波町）25.4cm 3 位 畠山 立（りつ）（紫波町）25.0cm ブービー賞 一般の部 玉城和来（紫波町）11匹 ジュニアの部 細川琉生（紫波町） 2匹 レディース賞 畠山莉菜（大瀬川）25匹 当日賞（受付29番目） 工藤浩一（花巻市）	人事（敬称略） 大瀬川地区自主防災会連絡協議会 会 長 菅原敏幸（新） 副会長 菅原昭悦（再） 山形圭子（新） 好友会 会 長 藤原美輝（再） 副会長 熊谷 豊（再） 藤原光宏（新） 葛丸川淡水魚愛護組合 会 長 菅原 昇（再） 副会長 熊谷幸夫（再） 自主防災協が無線通話訓練 大瀬川地区自主防災会連絡協議会（菅原敏幸会長）では花巻市の防災訓練に併せて、6月29日に17名が参加して防災無線機通話訓練を実施した。この訓練では花巻市の5名の職員から指導を頂いた。防災無線通話訓練は、無線機の点検から始まり、地区に大雨が発生したので大瀬川振興センターに避難するようにとの想定で実施したもの。 避難指示を受けた地区民（今回の対象者は行政班長、7・八・九区自主防災会役員）が大瀬川振興センターに避難した。避難後は花巻市の防災担当者から簡易テントと段ボールベットの組み立て方の指導を受けた。大瀬川振興センターの防災倉庫には、現在簡易テント（室内用）が6基、段ボールベットが6台保管されている。いずれも実際に組み立てる段になると戸惑う所もあったので、訓練がいかに大切かが分かった。この日は他に菅原教雄さんからAED（自動体外式除細動器）の取り扱いの説明もあった。 この訓練に参加した方々は 菅原敏幸さん、菅原清孝さん、菅原正義さん、菅原三郎さん、菅原茂さん、菅原照子さん、菅原教雄さん、菅原昭悦さん、板垣正博さん、板垣武美さん、菅原得之さん、熊谷秀夫さん、山形圭子さん、熊谷俊彦さん、熊谷和典さん、熊谷純一さん、藤原咲子さんであった。 季節の小窓 近年は異常気象の連続となっている。今年は6月中に梅雨明けした地方があるなど、全国的に猛暑が続いて空梅雨ぎみとなっている。 タチアオイ（立葵）は梅雨入りの頃に茎の下の方のから咲き始め、梢の方まで咲きあがるころ梅雨が終わることから、「梅雨葵（ツユアオイ）」という別名もある。今年の花は、もうすぐ上まで咲きそうで、半月位早いように感じている。 野菜でも、ジャガイモの花が早く咲いたり、関東地方でレタスや大根が枯れて収穫量が半減しているとニュースでは報じられていた。夏から秋にかけての野菜類価格の高騰が危ぶまれる。 また、今年は米概算金も早く決まったが、このままの天候では高温障害や渇水等による品質低下や収量減も危ぶまれそうだ。
--	---	--